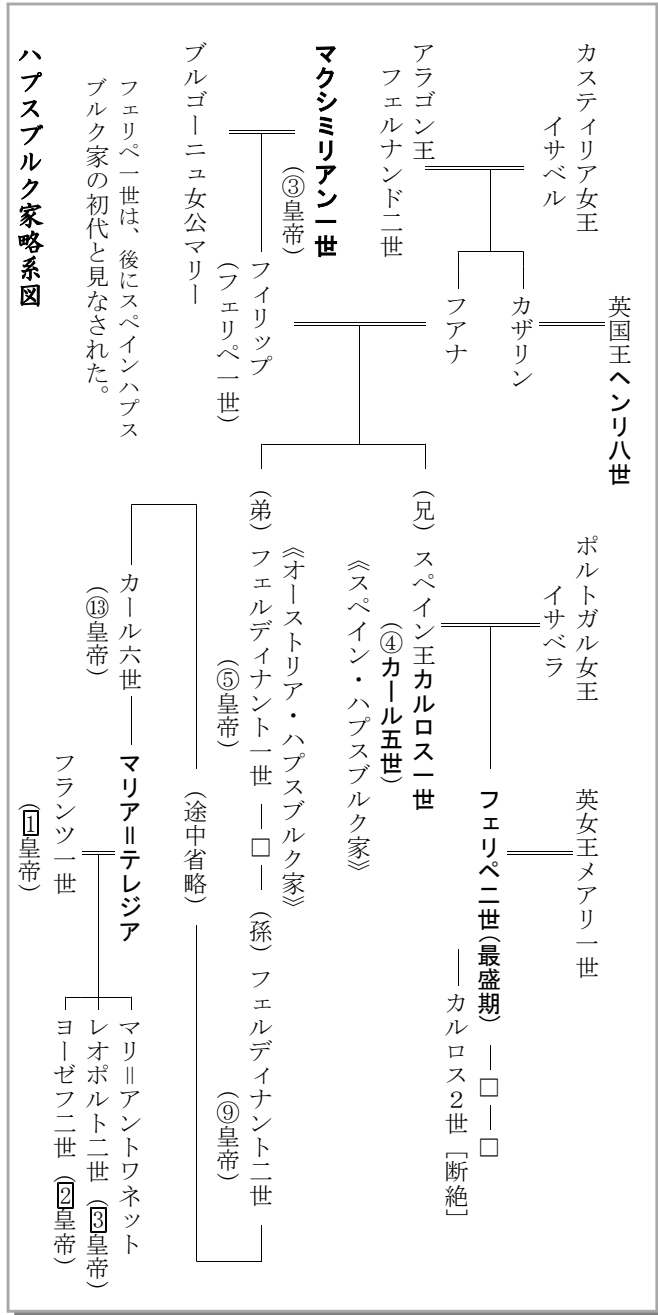


盛期スペインはハプスブルク家の系図で押さえよう！

オーストリアのハプスブルク家は、マクシミリアン1世以前の1477年、婚姻によって既にネーデルラントを家領としており、マクシミリアン1世、スペイン王カルロス1世(カール5世)を経て、フェリペ2世に継承された。



マクシミリアン1世 位1493-1519

4世紀にわたるハプスブルク家によるヨーロッパ支配は、神聖ローマ皇帝マクシミリアン1世 位1493-1519 によって開かれた。ハプスブルク家出身のオーストリア大公マクシミリアン1世は、1477年、北海沿岸のブルゴーニュ公国の継承者マリーと結婚、ベルギー・オランダ等を得た。その息子フィリップ(フェリペ1世)とスペイン王女フアナとの間に生まれた子はスペイン王カルロス1世(=神聖ローマ皇帝カール5世)となった。なお、フェリペ1世は、カステール王としてフアナと共同統治。これは当時は僭称とされたが、後にスペインハプスブルク家の初代と見なされた。

カール5世

- i) マクシミリアン1世の孫で、スペイン国王カルロス1世 位1516-56 は、皇帝選挙でフランス国王フランソワ1世 位1515-47 を打ち負かし、1519年、神聖ローマ皇帝カール5世 位1519-56 となった。
- ii) スペインとその海外領土、ヨーロッパにおけるハプスブルク家領を相続し、同家の勢威は絶頂に達した。しかし、イタリア戦争 1494-1559 で財政が破綻、1556年、スペイン、ネーデルラント ※1、イタリアの領土を子のフェリペ2世にゆずり、オーストリアと神聖ローマ皇帝の位は弟のフェルディナント1世に譲り退位した。フェルディナント1世は1526年にボヘミアとハンガリーの王位も継承している。 ※2

カール5世の死後ハプスブルク家は二つにわかれた。

オーストリア・ハプスブルク家は神聖ローマ皇帝の帝位をうけついだ。略系図中の③④⑤は、初代をアルブレヒト2世とするハプスブルク家出身者の神聖ローマ皇帝即位順である。もう一方のスペイン・ハプスブルク家は、カルロス2世の死で1700年に断絶。 ※3

フェリペ2世 位1556-98

後掲記事で詳説

- i) カルロス1世(=カール5世)からスペイン、ネーデルラント、イタリア等の領土を継承したフェリペ2世は、1559年にイタリア戦争を終わらせた。
- ii) 1571年にはオスマン帝国をレバントの海戦で破り、対抗宗教改革を推進するカトリックの盟主となった。
- iii) 1580年からは母方のポルトガルの王位も継承し、スペインとポルトガルの同君連合は1640年まで続いた。
- iv) アジア貿易を掌握し、フィリピン ※4 を手に入れ、スペインは「太陽の没することのない帝国」と呼ばれるほど繁栄した。絶対王政の最盛期であった。

マリア=テレジアという選択

1717-80 オーストリア大公 位1740-80

オーストリア・ハプスブルク家の男子の系統としては最後の国王カール6世は、自らの死によってオーストリア・ハプスブルク家が滅亡するのを防ぐために、1713年に国事詔書(プラ

グマティッシュェ・ザンクツィオン)により、ハプスブルク家領の不分割と(男女を問わず)長子相続を定めた。長男が若くして亡くなり、娘マリア=テレジアの出生(1717)後、1724年に彼女が継承することを国際的に認めさせた ※5。1736年、長じたマリア=テレジアはロートリンゲン公フランツ(のちの神聖ローマ皇帝フランツ1世 位1745-65)と結婚、ハプスブルク・ロートリンゲン家をおこした。カール6世の死(1740)によって、マリア=テレジア 位1740-80 が即位した。 ※6 空位となった神聖ローマ皇帝には1742年にバイエルン公のカール7世 位1742-45 非ハプスブルク家 が選出された。ヨーゼフ2世・レオポルト2世を経て即位したマリア=テレジアの孫フランツ2世 位1792-1806 は最後の神聖ローマ皇帝である。前掲系図の①②③は、ハプスブルク・ロー

トリンゲン家の神聖ローマ皇帝即位順を示し、系図外のフランツ 2 世は **4** にあたる。マリア・テレジアの娘、マリ=アントワネットは1756年の外交革命の結果、1770年、宿敵であったブルボン家に14歳で嫁ぎ、後のルイ16世の後となった。

以下の注釈群は、盛期スペインと他の地域の事件との関連を示しており、※5を除き、それぞれの項目で再度詳しく述べる。

- ※1 ネーデルラントを相続したフェリペ 2 世は、熱烈なカトリック政策を推進、**オランダ独立戦争**を引き起こした。
- ※2 更に、1617年、フェルディナント1世からボヘミアとハンガリーの王位を継承した孫のフェルディナント 2 世は、1618年、ボヘミア国王の名においてカトリック信仰を復活させようとした。これに抗議して、ボヘミアの新教徒の民衆が、国王の顧問らをプラハの王宮の窓からつきおとした（「プラハ窓外投擲事件」）事件から、**三十年戦争**が始まった。
- ※3 スペイン・ハプスブルク家が1700年に断絶すると、フランス絶対王政最盛期の国王ルイ14世が、孫フェリペのスペイン王位継承権を主張して、奥、英、蘭を敵として戦ったのが**スペイン継承戦争** 1701~14 である。北米での英仏戦争はアン女王戦争と呼ばれる。フランスは孤立苦戦した。ユトレヒト条約(1713)とラシュタット条約(1714)で終結した。ユトレヒト条約(1713)：英仏西で締結 ①ルイ14世の孫フェリペは本当にスペイン王になり（フェリペ5世）、スペイン・ブルボン家の祖となった。②フランスとスペインの合邦は永久に禁止。③スペイン領のジブラルタル、ミノルカ島（1783年再度スペイン領）はイギリス領、フランス領のハドソン湾地方、ニューファンドランド、アカディアはイギリス領とする。④**アシエント**（奴隷供給契約）は、スペインからイギリスに委譲される。
ラシュタット条約(1714)：ルイ14世と神聖ローマ皇帝間で締結 ①オーストリアはネーデルラント（南部）のスペイン領を得る。②オーストリアは、イタリアのスペイン領（ミラノ、ナポリ、サルデーニヤ、但しシチリアを除く）を得る。
- ※4 1542年、皇太子フェリペ（フェリペ 2 世）にちなんでフィリピンと命名された。1565年よりスペイン領。1898年以降アメリカ合衆国領。北部はカトリック化が進み、マニラはアカプルコ貿易で栄えたが南部ではイスラーム勢力が抵抗を続けた。
- ※5 厳密には1713年の国事詔書は家憲（非公開）であり、長男死亡、マリア=テレジア出生後の1724年に公示した。2001年から17年間の入試で国事詔書の年代を問う出題はなく、リード文掲出も 2 例のみ。2017慶応（文）は1713年としている。
- ※6 1740年、カール 6 世が亡くなると、マリア=テレジアのオーストリア継承に不服だったバイエルン、ザクセンに加えスペイン、フランス、プロイセンまで加わって、オーストリア側にはイギリスだけという状態で**オーストリア継承戦争** 1740-1748 は始まった。アーヘン和約で終結。
アーヘン和約(1748)：①**シュレジエン地方**はプロイセンが領有する。②マリア=テレジアはオーストリア・ハプスブルク家を継承する。

盛期スペインのまとめ スペインの全盛期は16世紀後半、フェリペ 2 世 位1556-98 の治世である。

- 1) 「太陽の没することのない帝国」は【1: 】の時代のスペインを指す言葉である。しかしその帝国は実は借金まみれだった。
- 2) まだ皇太子だったフェリペ（2世）は、1555年、父の【2: 】（＝神聖ローマ皇帝カール 5 世）からネーデルラントを譲られ、翌1556年、29歳でスペイン王**フェリペ 2 世**となり、アメリカ大陸の広大な植民地、ナポリ、シチリアなどの領土と同時に膨大な借金も受け継いだ。在位中に計4回ものバンカロータ（国庫支払い停止宣言）を行っており、財政事情は即位時から厳しかった。
- 3) 1559年に【3: 】を終わらせ、**カトー・カンブレジ条約**でフランスのイタリアに対する権利を放棄させた。
- 4) 1571年、オスマン帝国の海軍を【4: 】で打ち破り、地中海の制海権を握った。（しかし、これは一時的なものにすぎず、オスマン海軍はすぐに復活した。）
- 5) マゼラン海峡のあまりの厳しさ、太平洋の広さなどから西回りの香辛料貿易は成功しなかったが、1521年、マゼラン（支援したのは父王のカルロス 1 世）の艦隊が【5: 】に到達したことを契機に、1565年のレガスピのセブ島到達以降征服を進め、アカプルコ貿易などで大きな利益をあげた。フィリピンはフェリペ 2 世にちなむ命名。
- 6) 1580年、母方の【6: 】の王位も継承、ポルトガルを併合した。（ポルトガル王フェリペ 1 世。ポルトガルのスペインからの独立は1640年）
- 7) 獲得した莫大な銀を国内の【7: 】に使わず浪費した！

スペインの衰退 フェリペ 2 世は最盛期と衰退を一代で経験した。

フェリペ 2 世はスペイン絶対王政の体現者であり、カトリック世界の擁護者を自認していた。

- 1) 対抗宗教改革を支援し、フランスにおける【8: 】に介入するなど内政干渉を行った。
- 2) 【9: 】にカトリックを強制するため自治権を剥奪、重税を課す。
→1568年にネーデルラントで独立運動が発生する。
- 3) 1554年（王子時代）、イングランドの【10: 】と結婚、イングランドを支配しようとした。
メアリ 1 世の在位は僅か 5 年（1553-58）、1558年に病死。子はもうけなかった。フェリペ 2 世はイングランドに**無敵艦隊**を送り込んだが（1588）、逆に撃破された！これが【11: 】である。
「スペインは、アルマダ戦争 以 1 後 5 や 8 や 8 衰える」 ホントは「やや」どころではないがゴロ合わせである。
- 4) 商工業を担ってきた**ユダヤ教徒**や**ムスリム**を追放したため経済力が衰えた。
- 5) イングランドなどの私拿捕船の攻撃もあって、アメリカ大陸からの銀の供給量が激減。17世紀初めには**スペインの国勢は傾いた！**

2014センター試験 第3問の問1（前半割愛）・・・スペインは、1556年に即位した（ア）の下、カトー=カンブレジ条約によりフランスとの対立を有利に終結させた。さらに、地中海域の海戦でオスマン帝国に勝利し、ポルトガルの王位を継承することによって、その優位を確立した。しかし、カトリックの盟主としてのスペインの強硬な姿勢は反発を招き、ネーデルラントの反乱を支援した（イ）が、1588年に無敵艦隊を破った。

問1 文章中の空欄（ア）と（イ）に入れる語の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- | | | | |
|--------------|--------|--------------|----------|
| ① アーカルロス1世 | イ=イギリス | ② アーカルロス1世 | イ=スウェーデン |
| ③ アーフェリペ 2 世 | イ=イギリス | ④ アーフェリペ 2 世 | イ=スウェーデン |

正解③